

## 令和7年度 第1回生涯研修会受講者からの質疑応答

- 1 歯科治療を嫌がったり、必要な歯磨きを嫌がったりした時、歯科衛生士としてどう対処していますか。  
A) まずは口腔内外の観察をよくおこなって下さい。(口腔内外の粘膜疾患も含め)  
触らずに「口唇の乾燥、口角は切れていないか、口の動きはどうか」「お口を開けてください」の声掛けに従えるかどうか。「口腔ケアが嫌で拒否している」と思いがちですが本人の意思がある心因的な拒否ではなく認知症や脳血管障害後遺症などによる影響や抗パーキンソン病薬、抗精神薬の薬剤の影響による場合もあります。過敏であれば系統的脱感作、原始反射(検索反射・吸啜反射・咬反射)やオーラルジスキネジアがあれば開口保持方法の確立が必要となります。  
歯科衛生士としては・・・口腔ケア前の口唇の保湿、脱感作や口腔ケアの際はつねに実況中継しながら行っています。拒否で手が出る時は手を繋いでいただく所から始める事もあります。
  
- 2 大友歯科医院では午前と午後の診療の間、昼休みに訪問診療を行っているとのことでしたが、訪問診療に行く衛生士の人数や時間、また昼休みはどのくらい取れているのでしょうか。休む時間は確保されているのか。診療の合間に訪問に行くとしっかり休めないの、できれば行きたくないと思っている衛生士もいるようです。  
A) 基本的には見学や引継ぎなどがなければDH1名、Drとふたりです。なるべく同じ患者を担当できるように心がけています。診療所を出てから帰宅して書類作成や片付けを終えると1時~1時間半、遠方のお宅ですと2時間になることもありますが昼休みは1時間は必ず取ります(午後の診療準備の時間は他のスタッフに任せ休憩するなど)  
「できればいきたくない」という意見もはっきりと打ち明けられる職場作りが必要です。院長とDHとの信頼関係の構築や有給休暇を取得しやすい環境の整備などもお願いしています。
  
- 3 間接訓練の内容など、興味深いです。教えていただけないでしょうか。  
A) まず間接訓練をはじめるときには個々の機能への対応法だけではなく、食事、栄養、全身状態(パルスオキシメーターを確認しながらの場合もあります)も意識して口腔機能管理を行う必要があります。口腔衛生状態、口腔乾燥なども含めです。
  - ・健口体操(頬、口唇、舌)鏡を見ながら行ってもらいと頑張れます。
  - ・呼吸訓練(ブローイング訓練、巻き笛、紙ふうせん)
  - ・発声練習(パタカラ体操、新聞やカード、好きな歌を歌う、カラオケ)
  - ・ぺこぱんだ他職種やご家族などの協力、訓練の効果を舌圧測定器など数値で見る事でモチベーションが維持できる方が多いです。